



楽しく子育て!

～子育て支援コーナー通信～

第108号

発行日

2016年8月19日

毎月19日は、「かがわ育児の日」

司書のオススメ本

～ふえるといいな、好きなもの～

<企画展示コーナーから選んでみました>

我が家の小1の息子は、母の様々な努力も虚しく、野菜が大嫌いです。特に葉ものの野菜は全く受けつけません。ラーメンに絡んだキャベツの破片も丁寧に取り除いて食べるほど。そんな食生活のせいで太り気味の息子がある日、「どうしたら、もっと走るのが早くなるの?」と聞いてきました。思わず、「野菜を食べたら(食べ過ぎが防げてやせるから)早くなるよ!」と言ってしまいました。すると、効果てき面!普段食べない葉物の野菜をパクパクと食べ始めました。(さすがに進んで食べたのは、この時だけですが。)このほかにも息子には、「お魚食べると頭がよくなるよ!」も効果があります。今回の展示を機会に、魚や野菜の効用を詳しく教えてあげないと思っています。(D)

新しい本が入りました。

()内の数字は棚の番号です

『各分野の専門家が伝える子どもを守るために知っておきたいこと』
宋 美玄ほか/著
メタモル出版/刊
2016.7
(支援1-5)

『間違いだらけの食物アレルギー情報』
眞鍋 穰/著
芽ばえ社/刊
2016.7
(支援2-3)

『子どもの心の育てかた』
佐々木 正美/著
河出書房新社/刊
2016.7
(支援3-3)

『今日からできる!障がいのある子のお金トレーニング』
鹿野 佐代子,
前野 彩/著
翔泳社/刊
2016.7
(支援4-3)

<おススメbook>

『野菜だしでいろいろスープ』
宮沢 うらら/著 汐文社/刊



『お魚のひみつ たのしい料理と実験』
小竹千香子/著, 永井泰子/絵
さ・え・ら書房/刊



『食べものはかせになろう! 4』
『食べものはかせになろう! 5』
石谷孝佑/監修 ポプラ社/刊



子育て応援団を紹介します。 第12回

「高松市保健センター」②

前回に引き続き、高松市の健康づくりの拠点である「高松市保健センター」をご紹介します。

副センター長であり、ご自身も保健師の 坂上育子さんにインタビュー

Q1 みなさんに知っていただきたいサービスは？

A1 医療機関を受診して、「妊娠届出書」を提出する時は、妊娠からその先の子育てへ渡るまでのスタートラインで、大事な時期と捉えています。これまで、支所や出張所では、妊娠届出の際、事務職も母子健康手帳を発行していましたが、来年1月から、保健師等の専門職が行うこととなります。個室で保健師が面接し、妊娠中のことなどを十分説明して、「この先、保健師が関わっていきますよ」という話ができる態勢づくりを始めています。妊娠期からずっと支援していくことによって、健やかに、安心して、妊娠・出産・育児が迎えられるような、切れ目のない支援に繋がることを目指しています。

特に力を入れて取り組んでいるのは「はじめてのパパママ教室」です。これは、父親の役割をしっかりお伝えする教室です。妊娠期、お父さんがどのような役割をすればいいか、お母さんにどのような手助けや声かけをすればいいかがわかるように、妊婦体験をしていただきます。沐浴や着替えの実技もお父さんが行います。

人気の教室で、すぐに定員いっぱいになるので、今年度から教室の回数を増やしました。香川、国分寺など出産が多いエリアでも実施し、好評であれば、次年度も継続したい考えです。この教室に参加したお父さんから「この教室を受けていたから、上手にできたんです」という声をかけてもらうことがあります。



Q2 子育て中の方にメッセージをお願いします。

A2 高松市保健センターでは、育児は、家族、地域の人などみんなで、総合的に支えていきたいと思っています。

保健センターには、お母さんだけでなく、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんからの相談もあります。家族みんなで育児できるように支援したいと思っています。



子育ては大変で、2人目、3人目の子育てでも、それぞれ違う大変さがあります。2人目なら、上の子との関わり、3人目なら経済的な問題など。「子育ては初めてではないのに、こんなことを聞いたら恥ずかしい」など思わず、相談してください。その人それぞれの事情に合わせて支援したいと思っています。

「こんなこと聞いてもいいのかな」ということでも、聞いてください。ご相談の内容は他へは洩らしませんので、心配せず相談してほしいです。妊娠期から、保健師たちが一番身近で気軽な存在であれば、と思っています。子育て中の方、妊娠中の方を少しでも、バックアップしていきたいです。

編集後記 図書館は夏休みの時期、宿題を抱えた親子でにぎわいますが、わが家も今年からその仲間入りになりました。やはり難関は、作文や工作などです。タイムリミットが迫ってきましたが、子どもはあまりやる気がありません。「お母さんの宿題」じゃないんですけどね・・・。(T)